宇都宮市は｢英語キャンプ｣にALT　首都圏でも活用進む

データで読む地域再生　関東・山梨

2023/3/3 21:00 [有料会員限定]

宇都宮市は、小中学生がALTと英語で学外活動を体験する「イングリッシュキャンプ」を開催している（写真は2022年）

外国語指導助手（ALT）は関東・山梨の小中高校でも活用が進む。10万人あたりのALTの人数が最も多かったのは山梨県の26.46人で、全国でも3位。次いで栃木県が22.85人、茨城県が21.46人だった。海外で活躍できる人材を育成するため、小学生からの英語教育が必須となり、ALTは児童生徒の学びを充実させつつ、現場の教職員の負担も軽減している。

データで読む地域再生

49人のALTを配置する宇都宮市は、市独自の英語教育カリキュラム「イングリッシュキャンプ」を2018年から実施している。英語でコミュニケーションをとりながら、ALTと一緒にクイズに答えてゴールを目指すウオークラリーや工作などの学外活動を体験する。小学5年生〜中学3年生の希望者が対象で、自然に囲まれた市営のレクリエーション施設で実施している。

新型コロナウイルス禍の影響で20年と21年は中止したが、22年は3年ぶりに再開した。市教育委員会の小栗英樹学校教育課長は「例年、募集人数の数倍の応募がある。参加者や保護者の満足度も非常に高いイベントだ」と説明する。より多くの児童生徒に体験してもらうため、23年から開催日を増やす方針だ。

山梨県富士吉田市は11の市立小中学校にALTを計11人配置する

山梨県富士吉田市は11の市立小中学校にALTを計11人配置する体制を敷く。富士山観光で多くの外国人が訪れる同市は国際観光都市を標榜。「外国人とのコミュニケーション能力は大切。子どもの英語力と国際理解の向上に力を入れている」と市立教育研修所の村松悟所長は話す。

甲府市は23年度にALTを1人増やして20人にする。4月から小学3年生に少人数学級が導入され、学級数が増えることに対応する。

山梨県は県立高校に計27人のALTを配置。おおむね1校1人だが、19年に世界共通の大学入学資格「国際バカロレア」認定校となった甲府西高校には2人を配置して手厚い体制を敷いている。

東京都文京区は一部の区立小学校で、ALTを給食の時間や放課後にも活用する事業を試験的に導入した。従来より1時間ほど長くALTとふれ合う機会が増える。区教育推進部は「児童がより積極的に英語に関心を示すようになった」とみている。

小学3年生から英語が必修科目となったのは20年度。現場の教職員にとっては「英語の授業はまだ負担や不安が大きい」（区教育推進部）という。ALTが教育現場に加わることで、事前に授業の内容を相談でき、授業中は正しい発音で伝えてもらえる。

23年度からは全ての区立小学校で放課後などにもALTを配置し、一部の中学校では試験導入するという。

神奈川県横須賀市内の中学校で授業するオーストラリア国籍の外国語指導助手

米海軍基地の軍人や家族ら多くの外国人が暮らす神奈川県横須賀市も「英語の街」として市民の英語教育に力を入れてきた。ALTによる授業は04年度に始め、現在は市内の46小学校と2カ所の特別支援学校に計21人、市内の19中学校に計12人、市立高校に1人それぞれ配置している。

横須賀市はALTのほかに、外国人英語教員（FLT）を市内中学校の4校に1人ずつ、市立高校に1人配置する。小学校での英語授業も推進し、小学1〜2年生にも年間10時間の英語授業を独自に展開している。

（森岡聖陽、加藤敦志、松永高幸、仲村宗則）